

KITANO 消化器センター TIMES

2020.07
vol. 2

消化器内科主任部長
低侵襲治療センター長

八隅 秀二郎



ポストコロナの医療体制として、予防と拾い上げを徹底する事で日常診療に戻りつつあるかと思えます。北野病院は地域の皆様のために先生方との連携を通してより良い医療サービスを提供させていただきます。今回は消化器内科のスタッフから消化器の化学療法の専門家である高医師を紹介させていただきますので、気軽に相談していただければと思います。

平素は、消化器センターの診療にご協力とご理解を頂き、誠にありがとうございます。消化器内科の中でも、特に消化器癌の薬物治療を専門といたしております。昨年6月、厚生労働省より、“FoundationOne CDx がんゲノムプロファイル”と“OncoGuide NCC オンコパネルシステム”の2つの遺伝子パネル検査が保険承認となりました。今後は、がんゲノム医療にも力を入れていきたいと考えております。よろしくお申し上げます。



消化器内科 副部長
高 忠之

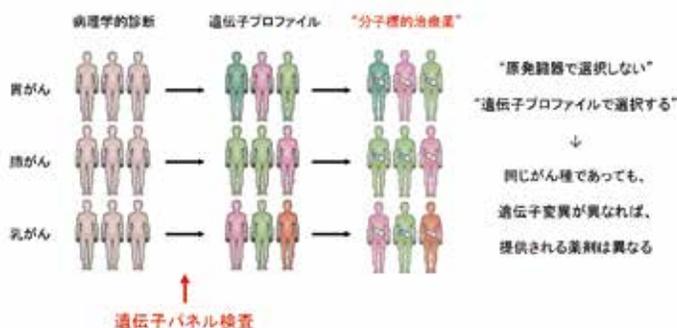
Pick Up !

がんゲノム医療と遺伝子パネル検査

ゲノム情報に基づく個別化医療の進歩とともに、がんの薬物治療も従来のシスプラチンなどの殺細胞性の抗がん剤による治療から個々のがん患者の遺伝子プロファイルに基づいて選択された分子標的治療薬（注）による治療に進化しつつあります。現在の日常診療においても、大腸癌におけるRAS 遺伝子や非小細胞肺癌におけるEGFR 遺伝子など単一の遺伝子の検査が広く行われていますが、遺伝子パネル検査では100種類以上の数多くの遺伝子を一度に網羅的に解析し、分子標的治療薬の標的となる可能性のある遺伝子異常をより多く見つけ出すことが可能です。

現在、検査の申し込みは厚生労働省指定のがんゲノム医療中核拠点病院（主に大学病院）などに限定されていますが、京都大学病院などと連携し、がんゲノム医療の推進に取り組んでいます。

★がんゲノム医療のイメージ図 “がんのゲノム情報に基づく治療薬の選択”



（注）がん細胞に固有のシグナル伝達異常や遺伝子産物を標的とした薬剤で、エルロチニブ（タルセバ）などの小分子化合物やトラスツマブ（ハーセプチン）などの抗体薬があります。

高 忠之 Dr プロフィール

資格等

京都大学医学博士
日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会専門医
日本肝臓学会専門医・指導医
日本臨床腫瘍学会 がん薬物療法専門医
日本がん治療認定医機構 がん治療認定医

専門領域

消化器癌の薬物治療、がんゲノム医療

北野病院消化器センターは、地域の先生方とお互いの想いを伝え合える積極的な連携を目指しています。あらゆる消化器疾患に関して、是非ご相談ください。

連絡先

地域医療サービスセンター
TEL 06-6131-2955（直通）
FAX 06-6312-8620（直通）